

【新年のご挨拶】

皆様あけましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのことと存じます。2020年が皆様にとりまして幸多き1年でありますよう心からご祈念申し上げます。

さて、本年の明和町におきましては、昨年引き続き「持続可能なまちづくり」を進めてまいります。それに伴い、しっかりと財政基盤を整え、競争力の高い町に行かなければなりません。つきましては、町の東西に工業団地を整備して、優良企業を誘致し、雇用の創出や安定した財源確保を図り、今後、この町がますます飛躍を遂げますように努めてまいります。本年6月には東北自動車道の東側45ヘクタールの工業団地の認可と国道122号バイパス西側の集客施設の認可を得られる予定ですので、そこへ優良企業の誘致を行っていきたいと思います。

それに伴い駅前構想も具体的になってきます。駅西側へ温泉、ビジネスホテル、商業施設の誘致、そして駅東側へ医療施設誘致と保健センター移転等を進めていけるように頑張っております。

また、少子高齢化・人口減少問題という全国的な課題に対応するために、人口の自然減が多い中、社会増をいかに増やしていくかが課題です。この地域の魅力と価値をさらに発信し、企業誘致による

雇用の確保を行い、移住・定住者や地元の若者が地元で働ける環境を整えていきたいと思えます。また、U J I 孫ターンからなるMターン促進奨励金事業にもより一層力を入れ、人口の増加策に取り組んでまいります。

そして、町で買い物ができ、町で食事ができ、就職も子育てもできて福祉、医療、自然環境の全てがそろったオールインワンの町をつかってまいりますので、皆様におかれましてはご支援のほど、よろしくお願いいたします。

そったくどうじ 【啐啄同時】

(またとない好機・絶好のタイミング)

そったくどうじ 啐啄同時という言葉があります。そったく 啐とは、ひな 雛が卵からかえろうとするとき、雛が中から殻をつつくのを「啐」、親鳥が外から殻をつつくのを「啄」と言います。禅では、親鳥と雛を師匠と弟子にたとえ、まさに悟りを得ようとしている弟子に師匠がすかさず教示を与えて悟りの境地に導くという意味です。そこから、何かをするのにまたとない好機、絶好のタイミングを表す四文字熟語となりました。



この絶妙なるタイミングはビジネスの世界にも多々あります。人間関係においても、相互の啐啄が時間的に間髪入れずに意気投合しているようであれば上手くいきます。機縁とは、あることが起こるようになるきっかけをいうのですが、つくろうとしてもつくれるものでもありません、機縁とは熟するもので、この機縁が熟した時こそ、啐の時であり、啄の時です。大事なものは、両者の啐と啄のタイミングがずれることなくぴったりと合うことです。

前述の新年の挨拶でも申し上げましたが、明和町は令和2年6月、東北自動車道東側へ工業団地と国道122号バイパス西側へ集客施設の市街化区域編入の認可が得られます。そして、川俣駅西側に温泉施設・ビジネスホテル・商業施設が誘致され、駅東側には医療施設の誘致と町の保健センター移転等が見込まれております。この認可や誘致にしても「啐啄同時^{そったくどうじ}」の掛け合いの中にヒントがあります。

東北自動車道東側45haの土地は、平成8年に工業団地として特定保留（県が次の市街化編入で農政協議を約束した認可地域）まで済んでいたにも関わらず、それを当時町が中止にしたものですから、同じ轍を踏むまいと、県は一度ダメにしたその土地について、最初は協議すらしてくれませんでした。県に何度も何度もお願いやっと協議に入ったと思ったら、今度は何度も何度も町の意志確認をし、

県はまた中止にされ農水省からペナルティを貰いたくないがために、町と慎重に協議を進めていきました。一度通った話だからと「焼け木^{ぼっ}杭^{くい}に火がつく」様な簡単な話ではなく、むしろ一度断った責任を町は追及され、その都度痛くない腹を探られて地権者の賛成状況など丁寧な説明に追われました。そして、将来見通しに一点の曇りもないことを主張し、その成果が認められ、工業団地の認可が降りることになりました。

国道122号バイパス西側の集客施設についても、一般的には認めて貰えない^{はんちゆう}範疇のものでしたが、集客施設があることによって明和町へ埼玉県や栃木県から多くの客にお越しいただき、群馬県や明和町の経済を浮上させ税収の確保、人の定住化へ繋がるため必要だと大澤知事(当時)の英断により、今回の認可に結び付けました。まさに国道122号バイパス開通と町の発展願望が招いた「啐啄同時^{そったくどうじ}」の掛け合いでした。

駅前^{駅前}の温泉施設、ビジネスホテル、商業施設及び医療モール誘致についても、町が調査のため専門機関を使って工業団地内の企業や訪れる人々を集計した結果、川俣駅西側には400haの工業団地(鞍掛団地等含む)に180社の企業がひしめき、そこを訪れる人は一日数千名、そのうち宿泊者は百名以上という数字が出ました。そ

れを川俣駅が背負っているといっても過言ではありません。そこで明和町では「まちづくり会社」を設立し、出資希望や出店希望を募集しました。そこへ民間資本が勝算有りと判断し出資してくれたわけです。まさに、町が「まちづくり会社」を設立し募集を行ったことと民間資本の応募は「^{そったくどうじ}啐啄同時」であります。

来年の駅前施設のオープンを目処に、色々な事業が進んでまいります。そして、その効果は町民の皆様の身にシャンパンタワーのごとく注がれてゆきます。シャンパンタワーとは、シャンパングラスをピラミッド状に積み重ねて、上からシャンパンを注ぐセレモニーです。結婚式などでたまに行われたりします。



シャンパンタワーは一段目の1つのグラスが満ち足りると、二段目、それが満ちると三段目…と段々と全体を満たしていきます。た

例えば、今回の駅前開発を一段目（1つ目）のグラスとして、二段目はその周囲の人々、三段目を近隣の住民の皆様、四段目をその先の人々へと、最後は全体を満たすことに繋がっていくわけです。全体をバランス良く満たすには、まずは一番上の1つ目のグラスを満たすことが必要です。

「^{そつ}啐^{たく}啄同時」を大切にすることは、何かをするのに絶妙なタイミングで行うということ。物事のターニングポイントで出会うべき人に出会うことで成功への階段を登ることになります。その効果をシャパンタワーの原理で周りに広げて波及させていく、まさに本年の明和町はその作業に入っています。

明和町の子供たちに託せる将来をつくるため、現代から未来に向けて私たちが「^{そつ}啐」をし、志ある資本家が「^{たく}啄」をすることで、持続可能な明和町が実現されていきます。雛と親鳥が力を合わせ、卵の殻を破り誕生する。この共同作業をたゆまなく続けて、決して逃してならない「またとない好機」を明和町の将来のためにつかんでゆく、そんな1年となるよう頑張ります。

令和2年1月17日

明和町長 富塚もとすけ